

かかりつけ医

松浦 俊博

コロナワクチン接種の申し込み書が五月に届き、住んでいる豊島区の接種場所として登録された、公民館とクリニックの一覧表が同封されていた。妻は五月にかかりつけのN医院で高血圧の薬を処方してもらった際に、手際よく五月接種の予約をしていた。私のかかりつけのO医院は登録されていなかった。「面倒だな」と思いながら公民館に予約することにした。

ところが予約開始日にWEB操作すると、既に七十五歳以上の予約が六月末まで埋まっていた。そこで予定を変更し妻のN医院に電話した。「すぐに来院したら受け付けます」とのこと。徒歩十分くらいを小走りで行き、診察券を発行してもらい六月の予約を終えた。

N医院の先生は心臓の専門医で、東京医科歯科大などの病院で医師をされていたベテランだ。妻は三年ほど前に心臓周りを検査してもらって以来かかりつけている。私は大雑把なO医院も嫌いではなかったが、倒れる時は循環器系の病気だと予想しているのも、これを機会に、この専門医にかかることにした。適切な選択だと思う。それに、病院の医師たちが献身的にコロナ治療しているときにワクチン接種もしないO医院は許されないだろう。

私の高血圧の薬を処方してもらうため、六月初めにN医院で初診を受けた。血液検査や胸部レントゲンや心電図などの普通の検査のほかに、心臓と頸部の超音波検査をしてくれた。先生は結果の動画データを見せて、動脈硬化の兆候がちらほらみられることを詳しく説明してくれた。「やっぱりねー」と納得した。処方された薬はこれまでのものとは異なり、妻が服用しているものに近い。

薬の適合性を確認するため二週間分だけ処方された。これまでは、妻が朝晩血圧を測るのを見て、「そんなに何回も測ったらストレスが溜まって、かえって血圧が上がるだろう」と冷やかしていたが、妻が測った後で私に血圧計を渡してくれるのが日課になってしまった。血圧メモをエクセルで作り記録している。そのうち値が安定してきたら、こんな煩わしい記録はやめたい。